



あさひ17号

2020年(令和2年)

1月6日発行

福山市立旭小学校長

池田 恭子

新年あけまして おめでとうございます



新しい年がスタートしました。新学習指導要領の実施、AIやICTの導入等と合わせて、子ども主体の授業への変革が問われています。その中で自分は何を目指すのか、自分で決めることはとても大切だと思います。同時に、チームとしての協働を大事にしていきましょう。旭小の子どもたちにとっても、職員の皆さんにとっても良い1年となりますように。今年もよろしくお願いいたします。

チューリップの球根は、冬の寒さに当たらないと、春に花を咲かすことができない



チューリップの球根は、秋に植えます。しかし、冬の時期球根はまったく芽を出していません。成長が止まっているのでしょうか。今、土の中で球根が水分を吸ってお尻から根を出しています。北風が吹く日も、雪の日もこうして土の中でじっと春を待ちます。土の中で芽を出す準備をしているのです。そうして、だんだん暖かくなってくると、チューリップの芽が地面に顔を出し始めます。そして葉が伸び、つぼみをつけた茎が伸び、だんだんつぼみが開いてチューリップの花が咲くのです。このようにチューリップの球根は、必ず一度寒い時期を乗り越えなければ、きれいな花が咲かないという性質を持っているそうです。だから暖かい建物の中ではなく、雨や雪のあたる外で育てます。寒くなる前の秋に球根を植えます。寒い時期は土の中で成長するための準備をする大切な時期です。

人間にも頑張っていてもうまくいかなくて成長できていないなあとか、しんどいなあと思うことがあるのではないのでしょうか。人にとってこの「準備」とは何でしょうか？毎日の学習や自分の仕事をきちんとしたり、友だちと協力したりすること、人に気持ちのいい挨拶をすること。こういう地道にコツコツと頑張ることがきっと成長するための「準備」です。チューリップが寒い時期、じっと土の中で準備をしているように、私たちも結果を出すことだけにとらわれずに、日頃の蓄えをしっかりとりたいものです。後で振り返った時、「こんなところが伸びた」「1年前よりずいぶん成長した」と言える日がきっとやってきます。

子どもに喜ばれる鍛え方 6カ条

- ① 「不満の自覚」から出発
現在の自分の状況に何らかの不満をもつことが向上への契機になる
- ② 「希望とめあて」をもたせる
 - ・具体的であるほどよい
 - ・達成への時間が短いほどよい
- ③ 「努力の筋道」を教える
具体的な努力の仕方がわかると、実行する
- ④ 「努力の結果」を見せる
障害や抵抗が克服されつつある事実を見せる
- ⑤ 「向上的変容」を自覚させる
 - ・やってよかった、頑張ってたよかったという体験をしっかりとらせる
 - ・子どもの伸びを共に喜ぶ
- ⑥ 「鍛えて伸びるすばらしさ」を自覚させる
伸びや成長が、自分の努力や精進や鍛錬の結果であることを分からせる

学習意欲を高める鍛え方 6カ条

- ① 子どもをほめる
- ② 伸びを自覚させ、成長を共に喜ぶ
「ほめる」は、ある距離を保って評価すること、「共に喜ぶ」は、相互の距離が0になり教師を身近に感じる
- ③ できないときこそ「しめた」と考える
子どもにとって抵抗が大きいほど授業はおもしろい
- ④ できないという劣等感を取り払う
恥ずべきことは「できないことをそのままにしておくこと」「できないことを隠そうとすること」だということを子どもに教える
- ⑤ 授業をおもしろくする
 - ・わかりやすい
 - ・伸びていくことが分かる
 - ・自分のまちがっていた理由が分かる
 - ・どこがよく、どこが悪いが分かる
- ⑥ 授業を個別化する
作業化…一人一人の子どもがどうしてもやらなければならない作業が常に用意されている